令和4年度第2次補正
探究的学習関連サービス等利活用促進事業費補助金

探究的な学び支援
補助金2023

効果報告レポート

【事業者名】
株式会社TOKYO EDUCATION LAB

【サービス名称】
探究LAB

【サービスの機能分類】
区分A-1　メインサービス

２０２４年１月

●サービス概要「探究LAB」について

【サービスの特徴】

地域課題解決のための探究学習をトータルでプロデュースする内容です。事前学習のサポートから事後学習まで一貫して学校と伴走してサポートいたします。

【活用場面】

修学旅行の行き先を探究するための事前学習として探究LABをご活用いただけます。
事前学習として訪問先の地域課題を発掘し、その解決策を考え、プレゼンテーション形式で発表まで行います。
行き先が１箇所、複数コースいずれの場合でも共通したプログラムによって探究学習が可能であり、人数の多寡に影響されることなく事前学習期間で「課題設定」→「情報の収集」→「整理・分析」→「まとめ・表現」の探究サイクルが実現できます。

【サポート内容】

実際に授業を行なうのはクラス担任あるいは探究担当の先生がたとなります。授業が円滑に進行できるよう、以下の点においてサポートを行っております。
・授業設計（各回ごとの授業スライド、ワークシート作成・提供）
・教員指導マニュアル（授業進行表）
・教員フォロー（授業ごとの事前・事後打ち合わせ）

■探究学習等サービスの概要

【サービスの概要】

地域課題解決探究プログラムとして、以下の内容を全10回プランで構成しております。

・SDGsと地方創生

・自分の住む地域の魅力と課題を調べる／探究先の魅力と地域課題を調べる

・チームづくり

・プレゼンテーションテーマ決定／プレゼンテーション作成

・プレゼンテーション大会

【サービスの特徴】

修学旅行の事前学習として取り入れることが可能です。全10回を3ヶ月（1学期分）あるいは半年（2学期分）として年間学習計画に組み込むことで、中長期的にわたり授業を設計することができ、修学旅行そのものを探究学習のゴールとして活用することが期待できます。

【活用場面】

修学旅行や研修旅行で校外の地域に向かう際、訪問先が抱えている地域課題解決のための提案を探究学習として取り入れます。

地域創生をテーマに探究することで、将来的・副次的な効果としてプレゼンテーション能力が向上や総合型選抜入試も視野に入れた進学への士気向上につながります。

【サポート体制】

導入先となる学校の年間学習計画に沿って毎回の授業をフォローいたします。

授業時に使用するスライド提供／ワークシート提供／授業進行用の教員指導書提供／毎授業前後の教員打ち合わせフォロー

課題および課題の背景となる仮説

①時間とカリキュラムの制約

探究学習には十分な時間が必要であり、通常の授業時間内に難しい場合があります。既存のカリキュラムや教育制度の制約により、探究学習を導入する余裕がないことが悩みとなることがあります。

②資源と設備

探究学習には十分な資源と設備が必要ですが、これが限られている場合があります。特に実験やフィールドワークが必要な場合、資金や施設の不足が課題となります。

③生徒のモチベーションと興味

探究学習は生徒たちが自発的に関与し、自分で問いを立てる必要があります。しかし、生徒たちのモチベーションや興味を引き出すのが難しい場合があります。

④教員のスキルとトレーニング

探究学習を成功させるためには、教員が十分なトレーニングやサポートを受ける必要があります。
しかし、そのような機会が不足していることがあります。

本サービスが果たす役割

①時間とカリキュラムの制約

全10回のモデルプランをもとに授業を設計しているため、修学旅行出発までの数ヶ月～半年の期間で効率的・効果的な探究活動が実現できます。本サービスが修学旅行の事前学習の役割も果たせます。

②資源と設備

授業で必要になる機材は、多くの学校で導入済みの生徒用タブレット・スライド投影用プロジェクター程度で済みます。授業で使用するワークシートやスライドを提供することで教員の負担を軽減します。

③生徒のモチベーションと興味

探究テーマ設定時には、自分が住む街・探究先の地域それぞれの魅力と課題を調べてグループで共有するステップを設けています。主体的に探究活動が行えるよう、生徒主体で学べる仕掛けがございます。

④教員のスキルとトレーニング

教員用スライド・生徒用ワークシートの提供、授業前後での教員打ち合わせサポート、授業進行表提供まで一貫したサポートがございます。

■探究的な学び支援補助金における活用場面

学校の課題をどう解決したか

・探究に対する意識の濃淡が担当教員間でもかなり差があり、本サービスを利用して授業を進めることで徐々に意識レベルや
ベクトルを揃えることができた。

・日々の担任業務や部活動の指導で逼迫している業務量を、本サービスを利用することで授業スライド・
ワークシート作成に費やす時間が削減され、その負担が解消できた。

・自身が担当する教科会の教員以外とのコミュニケーションが増え、教員同士での連携力がアップした。

・ファシリテーターとしての立場で授業に臨むことが求められることを教員が自覚した。

・何から手をつけてよいか困っていたところに、10回分もの授業を設計してもらえる余裕が生まれた。

・授業の前後で行なう打ち合わせに同席してもらうことで、授業全般の不安ごとをすぐに相談できた。

■探究的な学び支援補助金における活用場面

授業様子（進行は探究担当の各教員）

探究シート⑤　【チーム名＿＿＿＿＿＿／氏名＿＿＿＿＿＿】

プレゼンスライドを作成するための下書きシートです。
チームメンバーでさまざまな意見を出し合って、まずは文字に起こしてみましょう。

タイトル・メンバー

■テーマ設定の理由

■現状分析・課題
※データも活用して、客観性をもたせることも意識しましょう。

■課題解決のための仮説
※自分なりの答えを予想しましょう。

■提案
※仮説をもとに、実際どのように実現していくのかを検証しましょう。
5W1Hを意識して考えましょう。Whenいつ、Whereどこで、Who誰が、What何を、Whyなぜ、Howどうやって

■結論
※提案による尾道の未来像は？どんな尾道にしたいと考えているかを聴き手に伝えましょう。

sample

©Tokyo education Hub2023

ワークシート見本
（各回の内容に合わせて用意）

■探究的な学び支援補助金における導入実績

【導入校】
駒場学園高等学校（東京都世田谷区）
2年生232名対象
2023年9月～10月　全10回パッケージとして提供

以上

探究学習担当の教員へのヒアリング結果

【生徒の学び方に関する変化】

・探究学習用に組んだクラス内でも新たな友人関係が構築されるようになった。
・通常の授業においてもディスカッションやグループワークに活性化が見られるようになった。
・校外で行われる地域交流やプロジェクトに参加する生徒が出てきた。
・能動的に行動したり自習をする生徒が増加した。

【教員の働き方に及ぼした変化】

・プレゼンテーション作成、発表の経験を活かして総合型入試への挑戦を勧める自信がついた。
・教員同士でのコミュニケーションが増えた。
・探究に対する恐怖心が薄れた。
・授業スライドやワークシート作成の負担が軽減され、他の業務に専念できた。
・朝のSHRで実施している小テストのスコアが上がってきた。

直面した課題

①探究先の地域課題を調べる際に、検索ワード「○○市_課題」というケースが多発し、どの生徒も似通ったものが多く出た。
②プレゼン作成が進むにつれて、パワーポイント作成に精通した生徒ばかりがスライド作成を担当する場面が見受けられた。
③探究テーマごとにチーム作成を生徒主体で行わせたが、テーマによっては人数に偏りが発生し、平均化させるために調整が必要となった。
④中間報告のプレゼンではフィードバックする教員の数が足りずに全チームに十分なフォローができなかった。

改善策

❶地域課題調べの前に現地の観光大使や行政の方とオンラインで街の紹介や魅力・課題発見につながる内容で生徒との対話時間を設ける。
❷予めチーム内での役割を細分化してスライド作成を推進する。作成が苦手な生徒向けに大まかな雛形を示し、より集中して探究活動に向き合えるよう配慮を示す。
❸探究したいテーマを事前に集計しておき、教員の判断において生徒の集団を調整する。
❹発表しない生徒にも気づきや疑問が記入できるワークシートを開発することで、生徒目線でのフィードバックも行える仕組みを構築することで様々な視点での声を反映させられるよう改善を図る。

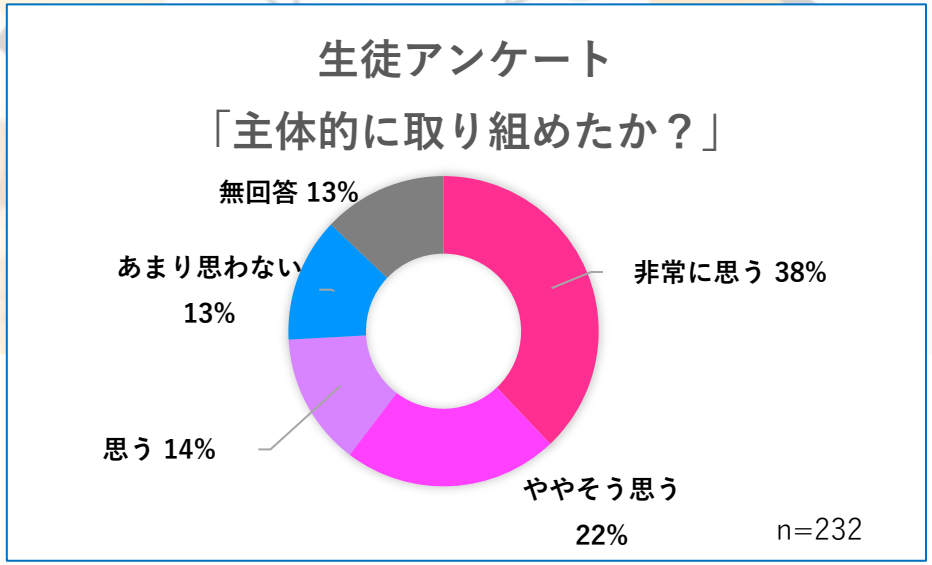
■サービスを活用した児童・生徒・教職員等のコメント感想等

教員からの主な感想

・教科が１つ増えた分、探究担当者は負担が激増するかと思ったが、授業で使用するツールを準備いただけたので安心できた。
・そもそも探究の授業をどう進めてれば良いかを理解できないまま授業の時間だけが進んでしまっていたため、教員のフォローも含めてサポートしてもらえて心強かった。
・プランにある授業回数が潤沢にあったため、生徒一人ひとりと向き合う時間が確保できた。
・教員は誰も自分の中高生時代に探究を経験していないので、これを自前で実施しようとするのは限界があるだろう。
・もっと外部ソースを活用していくべきだと思う。

生徒からの主な感想

・知らない人とのグループワークは正直不安だったけれど、始まってみると前々気にならずにプレゼン準備を進められた。
・テーマ設定が難しかった。もっと前から授業で考えられていればプレゼンに向けての準備が確保できたと思う。
・自分たちでやらないと何も完成しないから他の授業と違って50分があっという間だった。
・関心が薄い人と同じチームになった人はグループワークが進んでいなくて大変そうだった。



■会社概要

会社名	株式会社TOKYO EDUCATION LAB
本社所在地	〒106-0045東京都港区麻布十番二丁目20番7号 BIRTHAZABU-JUBAN TEL：080-7248-8889（代表）
事業内容	1. 探究LAB（地域課題の解決を考える探究学習サービス） 2. 起業LAB（アントレプレナーシップ型キャリア教育サービス） 3.School LAB（学校づくりから学ぶ、学校創立ワークショップ） 4.SDGs LAB（ボードゲームでSDGsを楽しく学ぶワークショップ）
設立	2021年 4月
資本金	300,000円
代表者	金井　隆行
役員	代表取締役　　金井 隆行 取締役副社長　　織茂 和貴 取締役副社長　　金田 隼人
従業員数	社員2名、アルバイト2名
売上高	49,000,000円（前年度） 29,000,000円（前々年度）
決算期	3月末
問合せ窓口	info@tokyo-education-lab.co.jp（担当：小林）